

千刈狸の呟き

たわ言

急な原稿依頼がありしかも海外旅行直前であり、たった今、8月30日に韓国から帰ってきた身にとってはいささか性急を要する状況である。少なからぬ誤謬と思ひ込みが挿まれることをお許し願いたい。この際だから少し好き勝手なことを言わせてもらう。まず、immigration についてである。成田から出国の際は何も問題はなかったが、羽田についてからの再入国審査官の対応が印象を極めて悪くした。Ethnic minority (在日) の身の上ではあるが、日本で生まれ育ち特別永住者の資格を有している。再入国の際、案内には特別永住者は入国審査は日本人と一緒にどうぞと明記しているのにも関わらず、わたしが審査官にパスポートを提出するや否や、いきなり英語でまくしたてられ首を横に振り、となりの外国人専用のほうに行けと指図する態度にはあきれかえってしまった。ふだん住み慣れているこの国に (マイホーム) 帰った際、このような対応に大いにがっかりしてしまった。心配りの日本、親切な日本人とのイメージとは程遠い。なおかつ、こちらが日本語が充分通ずるとわかっているにも関わらず、わざと理解のできぬ英語で指図し追い立てる様子はかなりの悪知恵である。ある意味役人のいやらしさというか、その立派な能力、知恵は無駄に使ってほしくないという思いがあふれてきた。そんなことで人をいじめてもしょうがないではないか。公務員として、日本の玄関口で、はじめに接する日本の代表として、人間としての尊厳はないのだろうか。外つ国の人々への hospitality は微塵もなかった。恥ずかしくもあり悲しい話である。

もうひとつこれもごく最近、経験した出来事ではあるが、秋田県は空の国際線維持に必死である。秋田 - ソウル間の定期便の維持にかなりのエネルギーを費やしている。プサン - 秋田間の貨物船舶の運航受け入れや乗客維持、観光案内の熱意が評

価されまだ定期便は生きている。秋田を代表する県都、秋田市は秋田駅に隣接し多目的ビルアルヴェを完成させ様々なイベント、会議、住民サービスを行っている。土曜日、日曜日に行っても住民サービスが受けられるというのがこの施設のひとつの売りになっている。わたしのような Ethnic minority にとってはこのサービスは関係のないことだった。普段いそがしい身の上ゆえ日曜日に印鑑登録証明をアルヴェの市民サービスへとりにいったところ、無下にも外国人には出せないと断られてしまった。印鑑登録カードがあるにも関わらずである。いったいこの国は、この市はどうなっているのだろうか？ 人一倍、県民税、市民税を払っているにも関わらずその還元はない。平日の時間内に行けば交付が可能ということだが、しかたなく午前中、暇を取り目的書類を得たが、住民カードの交付を依頼したところこれもあっさり外国人には出せませんと断られてしまった。まだまだ、われわれのような Ethnic minority にとっては目に見えぬ壁がある。いずれは、多くの国から来る定住者にそなえ、いままでの外国人登録本位制ではなく、戸籍制、住民登録制度に移行しようと法整備はすすんでいる。数年後には、この矛盾は解決されると期待しているがまだまだ、この住み慣れた日本は思わぬところで住み心地が悪いようだ。しばらく外にいて、あたまが空白になっていたが政権交代を目の当たりに見て目が覚めた。住む者にとって暮らしやすい国に change して欲しい。

(ケサランパサラン)